

日本語教室が鷺っ子まつりに参加しました 子供たちが世界に触れる小さな機会

江藤美奈子（日本語教室部会）

11月19日(土)、鷺沼小学校でPTA主催の「鷺っこまつり」が開催されました。習志野市国際交流協会の参加は一昨年に続き3回目です。今年も日本語教室の外国人学習者と小学生がたっぷり3時間、交流を楽しみました。7カ国（中国、コロンビア、フィリピン、ネパール、メキシコ、タイ、ベトナム）からの学習者10人と共に、日本人ボランティア15人もお手伝いしました。

児童たちは、教室の入口で「シールラリー台紙」をもらい、生徒用の机でしつらえた各国のコーナーを巡ります。机を挟んで外国人の前に立つと、大抵の子供は黙ってしまいます。学習者が明るく母国語で挨拶すると、英語の場合は、子供たちは直ぐに「ハロー」と返していましたが、他の国の言葉には馴染みがありません。ボランティアが通訳したり、また流暢な日本語で説明する学習者もいました。学習者と児童がお互いの名前を教え合い、握手をします。台紙には、その国の国旗シールを貼ってもらい、学習者の名前や簡単な挨拶を母語で書いてもらいました。外国の駄菓

子をもろう時は、それはもう真剣に選びました。子供たちの知らない国も多く、世界に触れる小さな機会となりました。

美しい民族衣装を着用して参加した学習者は皆さんお綺麗で、私はつい見とれてしまいました。各国のコーナーには、民族衣装や装飾品、通貨、写真集などが展示され、興味を持った保護者が学習者と話し込む場面も見られました。

終了間際には、何人かの学習者とボランティアが自発的に台紙をもらって、ラリーに参加しました。学習者にとっても、色々な国の人と日本語でコミュニケーションを取る良い機会になったようです。

子供たちへのアンケートでは面白かったという答えが大半でしたが、中にはもっとお菓子をもらいたいという建設的(?)な意見もありました。

朝方は土砂降り、あいにくのスタートでしたが、児童も学習者もボランティアもみんなが「鷺っこまつり」を楽しんだ1日でした。



各国のコーナーでサインとシールをもらいます



終了後、学習者とボランティアのみなさん